

琳派の美 着物で表現

細見美術館、織物作家ら「京の技」活性化へコラボ

琳派のコレクションで、ヨシ、琳派の絵画をモチーフに、琳派の織物作家ら「京の技」活性化へコラボ

知られる細見美術館（京都市左京区）と西陣の織物作家、京友禅の染織作家の3者がコラボレーションを始めた。優美で華麗な



尾形光琳の「八ッ橋図屏風」をモチーフに、カキツバタと橋を大胆に配置した華麗な着物に見入る来館者（京都市左京区・細見美術館）

琳派の世界を表現した作品が並んでいる。

琳派をデザインに取り入れた着物を手掛けてきた高尾工芸の高尾建三代表（63）と、兄で工芸織物・榎屋高尾の高尾弘社長（75）が「京の伝統産業の活性化につながれば」と同美術館に呼びかけた。

細見良行館長が監修し、弘さん、建三さんと館藏品や資料の中から題材を選び、約2年がかりで着物5点、帯8点を完成させた。

尾形光琳の「八ッ橋図」

9日まで、正午～午後5時（9日は同4時）。入場無料。（森山敦子）